

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2470600228		
法人名	医療法人 井上内科病院		
事業所名	グループホーム萩の家		
所在地	三重県津市久居井戸山町751番地1		
自己評価作成日	平成27年11月15日	評価結果市町提出日	平成28年2月17日

※事業所の基本情報は、介護サービス情報公表システムページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaisokensaku.jp/24/index.php?action_kouhyou_detail_2015_022_kihon=true&JigvosvoCd=2470600228-00&PrefCd=24&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会
所在地	津市桜橋2丁目131
訪問調査日	平成 27 年 12 月 10 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

法人母体の医師が主治医であり、毎週1回の診察で健康管理がされています。日常生活はリハビリテーションを含んだレクリエーションにより、皆さん生き生き楽しまれています。またボランティアの方々に、月2~3回訪問してもらい、歌、踊りの行事に参加できる事を支援しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体の医療機関や関連施設が立ち並ぶ中の一つで、周りに梨園や畑が多くのどかな環境にある。開設当初から6名を定員とし、家庭的で目の行き届いたホームは、営利を度外視しても創りたかった創設者の思いが込められている。職員と利用者の明るい会話から、周りの全ての人々に思いやりの気持ちを持って毎日楽しく生活するという理念がしっかりと浸透していることが伺える。平均年齢が90歳を超えていても全員が元気に自己表現でき、会話が弾み笑いの絶えない事業所である。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の中で、他人のことも「思いやる」ことに重点をおいて理念としている。	明るい会話の中に、理念の中の『思いやりの気持ち』は、職員・利用者に浸透している。職員は利用者個々のプライドや意向を大切にしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	散歩途中「野菜がとれた」と地域の方々が、いつでも立ち寄り頂けるグループホームとなっている。	今年度は、地域に萩の家を知ってもらうことを目標の一つに掲げて様々な地域の集まりに参加したり、地元の住民や中学校の生徒たちと交流会をもった。また、近隣の住民が季節の採りたて野菜を届けてくれることもあり、地域の後押しが増えて来ている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	近隣の中学校の生徒、地域の方々、ご家族の方々に対し、交流の一環として講師に荒木梅子先生をお招きして押し花作成を開催し、交流の場として努めた。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会長、民生委員、行政の方々、ご家族の方々のご協力を得て、サービスの向上に繋がる様にアドバイスを頂き、運営に生かしている。	自治会長や民生委員が協力的で、年6回の会議では会話が盛り上がり、行政や家族からも貴重な意見や助言をもらっている。また、地元の回覧でホームの紹介をして知名度を上げる努力もしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に出席して頂き、事業所の問題等を一緒に考え、改善に向けて協力して頂いてる。	事務的な手続きの際に相談事などをしたり、行政側からは運営推進会議の出席時に地元イベントなどの情報を持参してもらうことがあり、連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	職員は身体拘束をしてはならない事を、よく理解している。	1年に1回研修をして身体拘束についての知識を得ている。現在拘束する必要性もなく、日中は玄関の施錠は行っていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	職員は虐待してはならない事をよく理解している。施設内では虐待は見受けられない。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在は制度を利用する方は入居されていませんが、成年後見制度について勉強している。他施設の職員からアドバイスを求められ、参考になればと資料を手渡した。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	管理者は契約時十分な説明を行い、理解納得をして頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者と会話を持つ事で、意見、不満、苦情等を早急に把握し、解決できる様に心掛けている。	家族の訪問が多く、その都度一緒にお茶を飲んで話をする時間を持ち、家族の思いを聴いている。運営推進会議への出席率も高く、今年度は5月に家族会を持ち利用者・職員共々楽しんだ。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を行い、職員の意見や提案を聞く機会を持ち、運営に反映している。	毎月行われる職員会議ではもちろんのこと、日常の会話の中でも様々な意見交換をして、利用者にとって最善の支援が出来るようにしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各行事内容を把握して、必要である資金、人材等を支援してもらっており、管理者や職員が働きやすい職場環境に努めてもらっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	意欲的に研修に参加し、職員の育成に努めている。今年は新人研修のオリエンテーションを行った。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他のグループホームとの交流により、サービスの向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	当ホームの見学面談の機会に、事前に不安な事、求めている事等を聞き取り、本人自身が十分楽しめる様に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族にも、当ホームの見学時や面談時に、困っている事、不安な事、求めている事等を十分に聞ける機会をつくり、受け止める努力をしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご家族の皆さんと共に、本人がより良い生活を送れる様に協力関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族の皆さんと共に、よりよい関係が作られている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	在宅サービスである事を念頭に置き、ご家族、お友達、ご親戚の方々が自由に出入りして頂ける様に支援している。	利用者の友人たちも高齢化し、行き来することが難しくなっている。たまに家族が友人を車で連れて来てくれることもあるが、最近では手紙を通してのお付き合いを支援し関係継続を大切にしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	6人という少人数であり、家族同士の様な関わりを感じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、ご家族の訪問があったり、連絡をしたりされたりして、付き合いを大切にしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々のコミュニケーションの中から、一人ひとりの思いやりや希望等を把握して、より良い生活が送れる様に努力している。	利用者の平均年齢は91歳であるが、全員話ができるため思いや意向は把握できている。利用者が大切にしているこだわり等には特に気をつけ尊重している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	独自のフェイスシートを作成し、これまでの生活歴を知る上で大切な資料と考え、ご家族の方々にも協力をお願いしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ひとり一人の生活リズムを知る上で、その人にあつた支援をしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	3か月毎に、本人、ご家族、必要な関係者と話し合いを持ち、介護計画を作成している。	利用者を担当した職員が、1ヶ月毎に利用者の心身の状態を詳しく書き留めたものをモニタリングに活かしている。3ヶ月毎にケア会議を開いて新たなケアプランを立て、家族の同意を得て支援に活かしている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	受持ち制により、気付いた点をチェックして、全員でモニタリングを行っている。また必要に応じて、新しい介護計画を作成している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人やご家族の希望に応じて対応している。かかりつけ医院への受診、買い物等の支援も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	民生委員、ボランティア、文化、教育機関等の協力を得て支援に繋げている。今年は井戸山地区の行事に参加した。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	母体が医療法人井上内科医院であり、安心で適切な医療が受けられる。	利用者全員が、母体の医療機関をかかりつけ医としている。1週間毎の往診で健康管理をし、さらに24時間体制の対応が可能のため、家族の安心感を得ている。職員にとっても大きな安心となっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	常勤看護師を配置しており、健康管理と医療活用の支援をしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	本人ご家族にとって、今どのような支援が必要なのかを見極め支援している。入院時、医師や管理者から十分に説明して、安心して医療を受けられる様に支援している。また医療機関との連携を密にしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	ご家族と終末期のあり方について話し合いを持ち、要望に応じた対応をしている。	入居時に看取りについて話し合い、医療体制についての確認書を取っているが、実際にターミナルを迎えた際には、医療の判断のもとに改めて話し合いの機会を設け、利用者本人・家族が望む支援を提供している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	独自のマニュアルを作成し、急変時や事故発生時にスムーズな対応ができる様に、話し合いを重ねている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	今年は地震災害をグループホーム全体で想定して、職員全員で避難訓練をした。また母体である井上内科医院と、老健菰の原の火災訓練にも意欲的に参加し、消火訓練や暗闇の中での食事準備等を実施した。	消防署立ち会いの下での避難訓練では、本番さながらの煙体験をしたり、夜間想定訓練で実際に暗闇の中で非常食の試食をした。グループ全体の防災意識は高く、協力体制ができている。防災頭巾を作成し、3日分の食料の備蓄も用意がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	男女共同生活の場である為、排泄や入浴に関するケアには、十分な配慮を心掛けている。	自分の居室が分からない時や、排泄の失敗時などにも職員は慌てず騒がず、利用者の尊厳を大切にされた対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個々の力に合わせた自己決定に寄り添って支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人の気持ちを大切にして、個別ケアの支援をしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	外出時の着替え等、希望に添っている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ひとり一人の気持ちを把握し、希望も取り入れながら献立を決めている。後片付けは職員と共に行っている。	職員がスーパーの安売りの広告を見て食材を買いに走ったり、近所の住民からのいただき物の野菜などを工夫して調理している。利用者は盛り付けや後片付けなどできることを担当し、利用者・職員が同じ物を食して楽しい時間を共有している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一日の食事の摂取量を把握し、能力に応じて食事摂取介助の支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを本人と一緒にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	昼夜通して、タイミングを見計らってトイレ誘導している。	体調によっては紙パンツを使用することもあるが、ほぼ全員布パンツで自立している。パットは小さな物を用意し、自覚意識を持ってもらうよう支援している。排泄のパターンを把握しつつ、さりげない声かけをすることもある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	散歩や体操で身体を動かしたり、水分補給を十分摂る様に配慮している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週3回となっているも、ひとり一人の入浴の希望、タイミングに合わせて対応している。	入浴は週に3回であるが、それ以外の日には朝夕にホットタオルを用意して清潔を保つようにしている。広めの浴室には十分に手すりがあり、利用者は安心安全に入浴を楽しむことが出来ている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中の活動に重点を置き、生活リズムを整え、ゆっくり休んで頂ける様に支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	定期薬処方に用法が記入されており、職員は理解している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日々、様々なレクリエーション活動を支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	地域の活動に参加や散歩等、戸外に出る支援をしている。	地域や母体グループのイベントに積極的に参加をしている。天候が良ければ玄関前に出て日光浴をしたり、ホーム周辺の花壇の花を観がてら散歩している。しかし、利用者は全員元気ではあるけれど、高齢のため長時間戸外に出ることは難しくなってきた。	事業所の玄関や建物周辺に椅子やベンチ等を置いて日光浴が出来る環境を作り、足腰の弱った利用者が季節を肌で感じる事が出来る機会をつくられることを期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の力に応じてお金の管理を任せているが、基本的にはご家族の考えを優先している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自由に電話を使って頂いたり、葉書・切手の用意、手紙の投函支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	南面した居室には太陽が十分入り、居心地の良い共用空間となっている。	彩光が十分入るリビングは、適度な広さで家庭の居間といった仕様である。対面式のキッチン調理をしながら利用者の見守りが可能で、常に職員と利用者の距離を近いものになっている。リビングの中央にはホームの愛犬のゲージが置かれ、愛くるしい表情で利用者の癒しとなっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	椅子や長椅子を置いて、利用者同士でゆっくりと会話できる空間を設置している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には馴染みの家具等を置き、本人が居心地よく暮らせる様に工夫している。	全室南向きで明るく、窓からは季節の桜や梅の花見ができ楽しみの一つになっている。部屋には天袋付きの大きな押し入れがあり、どの部屋もきれいに片付き清潔感がある。中には片付けの苦手な利用者があるが、職員がさりげなくサポートしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ひとり一人の持っている力を十分に発揮し、自立した生活が営める様に工夫している。		